



# 親子でなにわ新発見!

今月号に掲載している講座・イベント・展覧会などの詳しい内容を、その事業の担当者が直接PRするコーナーです。

今回ご紹介するのは 大阪市立阿倍野防災センターです。

## 防災センターで愛について考えました?!...の巻

今回のお出かけは、大阪市立阿倍野防災センターです。「え～!お勉強?!」なんて声が聞こえてきそうですが、それだけではありません。なんと、「愛」を感じさせてくれる、施設だったのです!

「防災センター」は3年前にできたまだ新しい施設です。ビル3階にある“体験型防災学習施設”とはいったいどんなところ?とドキドキで出かけました。ここには9個の体験コーナーと、防災についてパソコンなどを使って情報を得たり、学ぶことのできる「マルチメディアコーナー」があります。各コーナーでは、消防署OBの防災インストラクターが丁寧に指導、解説をしてくれます。また、グループごとに1名のアテンダントと呼ばれる案内役の女性が付き添ってくれるので、初めてなので不安、なんてということもありません。

体験するコーナーの数によって4つのコースから選ぶことができます。子どもの年齢、体調などを考慮して選択しまし

よう。地震で崩れた町並みで消火作業、地震体験、煙の中の避難など、リアルな設備に、最初、持っていた遊び感覚は薄れ、最後には真剣そのものになっていきます。



実物の重いポンプを使う「消火コーナー」

コース終了時には修了証がもらえます。一ヶ所失敗してしまった私、「がんばりましょう」の修了証をいただきました。失敗してもその場で詳しい解説をしてくれるので、かえって印象に残っていかも知れません。自分が体験しているところを映像でチェックすることもできます。

ところで、9月1日があなたの日かご存知ですか? 「関東大震災」にちなみ『防災の日』とされています。



震度7を体験!

「応急救護コーナー」で、「大切な家族のためにがんばりましょう」といわれました。センター長からは「自然災害をくい止めることはできないけれど、最小の被害にとどめることはできる」とも聞きました。愛する家族のため、大切にしたい



堺市から来たご家族の真剣な目!

ものを守るため、と考えると、ここでの体験は防災とかけがえのない命の大切さを考える大きなきっかけになることでしょう。きっと愛を感じますよ!!

(文・写真:梅木智子)

### 阿倍野防災センター

<http://www.abeno-bosai-c.city.osaka.jp>

場所 〒545-0052 大阪市阿倍野区阿倍野筋3-13-23  
電話 6643-1031  
FAX 6643-1040  
開館 10:00 ~ 18:00  
休館 水曜日、毎月最終木曜日  
(祝日の場合はその翌日)  
年末年始(12月28日~1月4日)  
費用 無料  
交通 地下鉄谷町線「阿倍野」西へ約300m



このコーナーでは「うちのイチ押し」「親子でなにわ新発見」「人権啓発「ばれっと」」の3つの読み物を順番に掲載しています。9月号は人権啓発「ばれっと」です。次回の「親子でなにわ新発見!」は11月号の掲載です。



## おおさか歴史探訪

大阪の史蹟や歴史資料を毎月連続でご紹介します。

### 住吉大社境内に残る古代の景観

住吉大社は航海の神、鎮護国家の神として古来より人々の崇敬を集めてきましたが、一方でその境内には、このあたり一帯の古代の景観がよく残されていることはあまり知られていません。

住吉大社の位置するところは上町台地の西端にあたり、西に向かって見晴らしの開けた高台にあります。本殿の西側には石積みによって四角く整形された池が南北に連なっていて、ほぼ中央には有名な反橋がかけられています。この池はかつて住吉大社の西側に広がっていた低湿地の一部を堰きとめて池としたものです。南側も「お田植神事」のおこなわれる「御田」が広がり、低湿地の名残をみることができます。一方、本殿の北側に摂社の大海神社が祀られていますが、これの西側は急な坂になっていて高低差が顕著です。このように境内には、住吉大社が台地西端の高台に立地し、その周辺に海岸の砂浜や低湿地が広がっていたかつての景観が良く残されていることから、大阪市の史蹟に指定されています。

中世においては、住吉大社の東側、つまり山側を通る「熊野街道」が和歌山方面へのメインストリートでしたが、江戸時代以降は西側の「紀州街道」に移ったことをみても、海岸線が徐々に埋積し安定した状態になり開発が進んだ状況を知ることができます。

このようなことを思いつくべながら、住吉大社周辺を散歩してみるのも楽しいですね。

(文・写真:教育委員会文化財保護担当)



かつて住吉大社の西側にあった低湿地の跡を留める池

